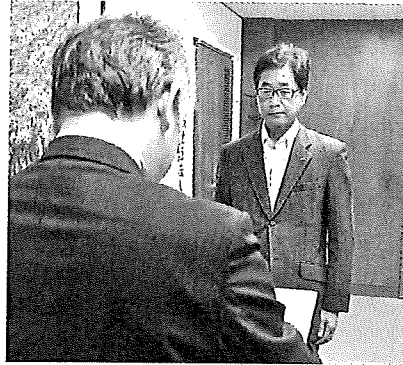


# 札建協の会員に感謝状

## 現場見学会の活動に対し

札工高



教育活動に協力した会員企業5社に表彰状を手渡した

田圭剛(会長)の会員企業に感謝状を贈呈した。

ことし、同協会が主催した現場見学会の活動に

札幌工業高校の猪股康行校長は十九日、道建設会館(建)など五社が生徒の受けを訪れ札幌建設業協会(岩)入りに協力した。

現場見学会は毎年、協会が若年者入職対策の一環で同校の建築科・土木科の二年生を招き会員企業の受注現場で開催している。建築の現場は、鉄筋・左官など専門工事業者との共同開催で実施。道内では珍しい、体験型の現場見学会として行われている。

こうした協会の活動に、学校側もインターンシップをはじめ現場見学会の機会が、生徒自身の進路を決めるのに役立つしていると評価する。

ことしは、建築科・土木科の生徒約百六十人が参

加。現場は札幌市の発注工事で、伊藤・勇・一三北路特定JV施工の「豊平川水道水源水質保全取水堰新設」工事、田中・丸竹竹田特定JV施工の「石山地区新設小学校新築ほか」主体工事の二カ所を視察した。

感謝状の伝達式では、猪股校長が現場見学会での受け入れに対し「工業高校の生徒にとって、見学会での体験が進路で大事となる。今後とも業界の協力をお願いしたい」と述べ、謝意を表した。

会場には生徒の受け入れに協力した会員企業の伊藤

組士建、勇建設(株)、一三北路(株)、(株)田中組、(株)丸竹竹田組の五社から関係者が出席。猪股校長が各社に感謝状を手渡し、日ごろの教育活動への協力をたたえた。

贈呈後、受賞者を代表して伊藤組士建の坂田和則常務執行役員、田中組の大野孝取締役専務執行役員がいさづ。協会事業による現場見学会を通じ「若年者の入職につながるならば」「子どもたちが今まで以上に、建設業を理解してもらえればうれしい」と期待を寄せた。